

連続トークイベント Vol.3

女性 ×

京都の伝統産業

女性の社会参画がますます進む現代。人々の生活様式や嗜好が移り変わり、厳しい状況下にある伝統産業において、多くの人々を魅了し、輝きを放つ女性の担い手が存在する。そうした女性を招聘し、講演やクロストークにより、京都の伝統産業の魅力や伝統産業の再活性化に向けた女性の活躍の可能性を探る。



< 講演者 > 千田優希



< 講演者 > 青山洋子



< コーディネーター > 中川典子

日時：令和4年2月12日（土）13：30 - 15：30

会場：QUESTION（京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町 390-2） 参加料：無料

定員：会場 30 名、オンライン人数制限無し

参加申込：web サイトから申込み（先着順）

<https://dentousangyou.peatix.com/>

主催：公益財団法人京都伝統産業交流センター、京都市

協力：京都信用金庫（QUESTION）

問い合わせ：公益財団法人 京都伝統産業交流センター（TEL：075-762-2690）

■ 申込み先



講演者等プロフィール

千田優希 (SENDA Yuki)

唐長十二代目

唐長十一代目千田堅吉の長男として生まれる。
京都二条城本丸御殿修復の際、唐紙製作の補助、文様復元の図案化等に関わる。
京都迎賓館新築工事で唐紙全体をプロデュース。

【唐紙制作】博物館所蔵国宝屏風、一流旅館、飲食店、一般住宅等

【講師等】京都精華大学「京都の伝統工芸講座」、同伝統産業イノベーションセンター特別研究員。嵯峨美術大学、京都工芸繊維大学、龍谷大学、立命館大学等で講演。母校である京都市立修学院小学校での特別授業。

現在、京都の国宝建築修復工事、唐紙全体工事などに関わる。

プライベートでは、コーヒーやワインなど飲食と色彩についてのレクチャーやアクセサリデザインなどおこなう。
また、2018年自身が自認した性別違和（旧名 性同一性障害）について研究及び支援活動始める。2019年、名前を誠次から優希へ改める。

青山洋子 (AOYAMA Hiroko)

和菓子店青洋店主

滋賀大学教育学部美術教員養成課程を卒業後、京都製菓技術専門学校で学ぶ。

有職菓子御調進所老松で10年間修業し、和菓子の美しさ、面白さ、美味しさ、可能性を多くの方に知っていただきたいと思い、2012年3月に和菓子店青洋を立ち上げる。

伝統の技術を生かし、匂いを残しつつ、現代の生活スタイルに合う和菓子を提案している。

お誂えの和菓子の製作、和菓子教室を主軸としながら、教育機関での講義やワークショップ、和菓子の展覧会など、和菓子にまつわる様々な事柄を行っている。

中川典子 (NAKAGAWA Noriko)

銘木師 / (株)千本銘木商会 専務取締役

京都市生まれ。木屋町三条で高瀬川の運搬を利用した、江戸時代から続く材木商、「酢屋」に生まれる。酢屋は幕末に坂本龍馬を匿った材木商で、創業300年の老舗。現在は、(株)千本銘木商会が家業を継承。

女性では珍しい岐阜、奈良県吉野での修行を経て、文化財建築材納入、京の町家再生、床の間づくり、新しいモダン木の空間の建築施工、家具・建具製作に従事。

床の間製作の銘木加工技術の特長を生かし、木のコーディネートも手がける。日本建築、和室、床の間や京に息づく木の道具など、知られていない木の由来、適材適所、木のある暮らしの豊かさを伝え、森と街をつなぐため、京都新聞にて、平成十五年から始まった「木林学ことはじめ」、続編平成十九年「木林学のススメ」の連載を約3年担当する。

京都木材青年経営者協議会 OB・日本銘木青年連合会会員。2017年林野庁・特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会における、木育推進委員。2009年より、京都の若手文化継承者たちで結成した「DO YOU KYOTO? ネットワーク」大使(環境大使)を務める。

趣味は、和菓子研究と茶杓作り。和菓子好きが高じて、京菓子普及と京の建築を楽しむ「京都・和菓子の会」を主宰。



公益財団法人 京都伝統産業交流センター

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9-1 京都市勧業館みやこめっせ地下1階
<https://fpkti.or.jp/> TEL: 075-762-2690 FAX: 075-761-7121